

2020年10月9日

報道関係者各位

SBI プリズム少額短期保険株式会社  
宮城県仙台市青葉区一番町2丁目1番1号  
仙台銀行ビル7階

SBI インシュアランスグループ  
シリーズアンケート⑥

---

## コロナ禍におけるペットとのライフスタイルの 変化に関する調査を実施

～約35%の方が新たなペットのお迎えを検討～

---

SBI インシュアランスグループの事業会社6社は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う行動様式・生活の変化を調査するため、各事業会社の特性に合わせたアンケート調査を実施いたしました。

SBI プリズム少額短期保険株式会社（本社：宮城県仙台市、代表取締役社長：高橋 俊哉、以下「当社」）では、ペットとのライフスタイルの変化に関するアンケート調査を実施いたしました。

### ◆調査結果のサマリー

#### ①コロナ禍で35%がペットを迎えることを検討、また20%が実際にペットを迎え入れた。

コロナ禍の中、既にペットを飼育されている方のうち、約35%の方が新たなペットのお迎えを検討され、約20%の方が実際に迎えており、コロナ禍でのペット需要増を確認できる結果となりました。さらに、迎えようと検討したペットの内、犬（54%）・猫（41%）が大半を占める結果となりました。

#### ②ペットとのお出かけは、他のペットや人がいない場所、時間帯を選んで。

##### 44%がペットとの外出行動に変化があった。

コロナ禍におけるペットとのお出かけ時に気を付けている点をお聞きしたところ、「他のペットがいない時間を選ぶ」、「人や動物が多い場所へは行かなくなった」と回答された方が合計で約44%となり、飼い主のライフスタイルにも影響が出ていることがわかりました。

### ③ペット用品の購入はネット通販への切り替えが進む。

コロナ禍において、ペット用品の購入に関して、変化があったかをお聞きしたところ、ネット通販での購入へ切り替えている方が 18%と、購買行動にも変化が出ていることがわかりました。

### ④約半数がペット保険への加入、または検討を実施。

ペット保険の加入状況について、お聞きしたところ、約 30%の方が既に加入していると回答され、一般に言われているペット保険普及率約 10%を大きく上回る結果となりました。また、加入を検討したことがある方は、約 15%と回答され、すでに加入されている方と合計して約半数の方がペット保険へ加入、または検討したとの結果となりました。

#### ◆調査概要

調査タイトル	コロナ禍におけるペットのライフスタイルの変化について
調査期間	2020年9月11日～9月14日
調査方法	インターネットによる調査
調査対象	20歳以上の男女/ペット飼育者
有効回答数	1,100名

#### ◆本調査に関する問い合わせ先

SBI プリズム少額短期保険株式会社  
経営企画部 広報担当 03-5840-6221

#### ◆SBI プリズム少額短期保険株式会社の会社概要

商号	SBI プリズム少額短期保険株式会社
所在地	仙台本社 宮城県仙台市青葉区一番町2丁目1-1 仙台銀行ビル7階 東京本社 東京都文京区本郷1丁目19番6号 太平ビル本館2階
設立	2002年11月22日
資本金	1億円
事業内容	少額短期保険業
URL	<a href="https://www.sbiprism.co.jp/">https://www.sbiprism.co.jp/</a>

#### ◆SBI インシュアランスグループについて

SBI インシュアランスグループは、日本のインターネット金融のパイオニアである SBI グループの保険事業を担う企業グループです。保険持株会社である SBI インシュアランスグループ株式会社のもと、当社を含む事業会社 7 社が一体となって総合的な保険事業を展開しています。

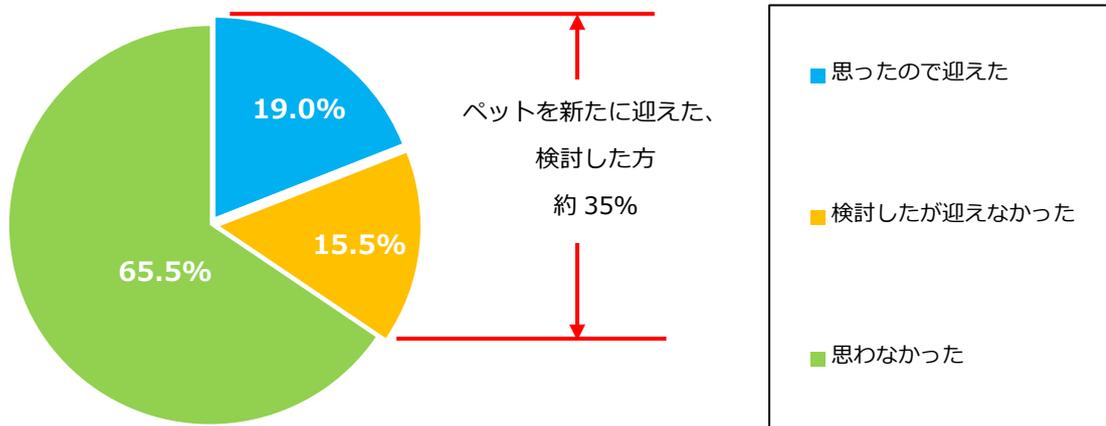
(別紙)

コロナ禍におけるペットのライフスタイルの変化についてのアンケート結果

1. コロナ禍におけるペットのお迎えについて

コロナ禍において、自宅待機（ステイホーム）の増加と共に、ペット需要が高まっております。実際に調査をしてみると、既にペットがいる方のうち約 35%の方が新たなペットのお迎えを検討し、約 20%の方が実際に迎えていました。迎えたペットの大半はやはり犬、猫が多勢を占めております。

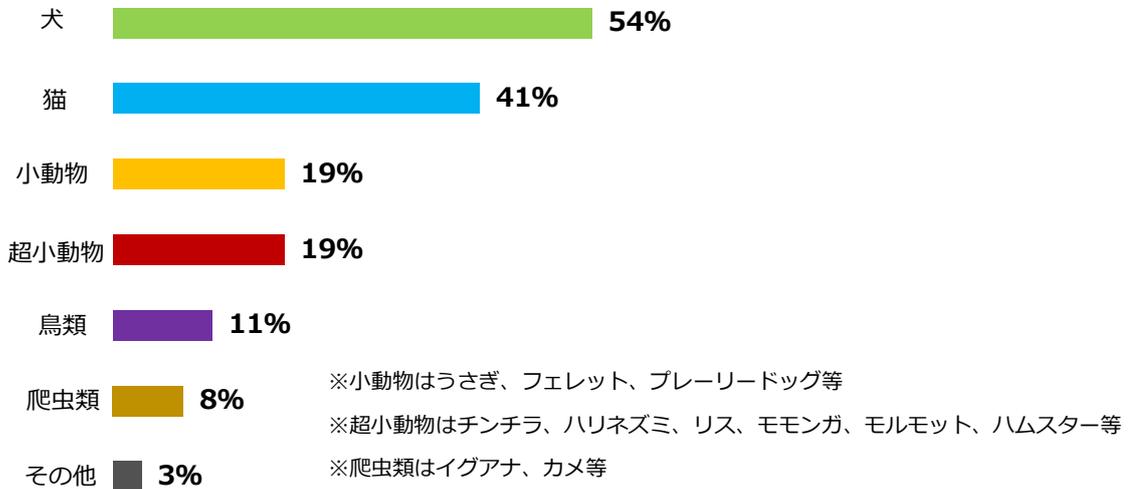
Q1 コロナ禍で自宅待機期間が増え、ペットを新たに迎えようと思いましたか。(n=1100)



		回答数	Q1		
			思ったので迎えた	検討したが迎えなかった	思わなかった
全体		1100	19.0%	15.5%	65.5%
性・年代別	男性20～29歳	26	61.5%	11.5%	26.9%
	男性30～39歳	68	50.0%	14.7%	35.3%
	男性40～49歳	138	21.7%	21.0%	57.2%
	男性50～59歳	236	12.3%	13.1%	74.6%
	男性60歳以上	204	8.8%	13.7%	77.5%
	女性20～29歳	54	42.6%	16.7%	40.7%
	女性30～39歳	97	24.7%	21.6%	53.6%
	女性40～49歳	98	23.5%	17.3%	59.2%
	女性50～59歳	107	7.5%	13.1%	79.4%
	女性60歳以上	72	5.6%	12.5%	81.9%

Q2 新たに迎えた、または新たに迎えようと検討したペットはどれですか。

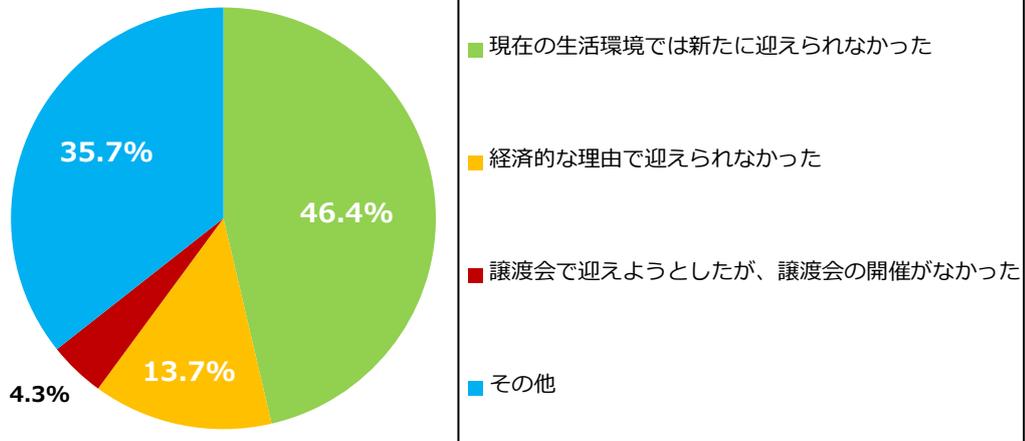
該当する項目をすべて選んでください。(n=380)



		回答数	Q2						
			犬	猫	小動物 (うさぎ、フェレット、プレーリードッグ等)	超小動物 (チンチラ、ハリネズミ、リス、モモンガ、モルモット、ハムスター等)	鳥類	爬虫類 (イグアナ、カメ等)	その他
全体		380	53.7%	41.1%	19.2%	19.2%	11.1%	7.9%	3.2%
性・年代別	男性20~29歳	19	63.2%	31.6%	42.1%	26.3%	10.5%	15.8%	0.0%
	男性30~39歳	44	65.9%	38.6%	29.5%	15.9%	11.4%	9.1%	2.3%
	男性40~49歳	59	50.8%	42.4%	13.6%	18.6%	10.2%	8.5%	3.4%
	男性50~59歳	60	41.7%	50.0%	13.3%	8.3%	8.3%	1.7%	6.7%
	男性60歳以上	46	50.0%	28.3%	4.3%	8.7%	13.0%	4.3%	8.7%
	女性20~29歳	32	56.2%	53.1%	15.6%	37.5%	9.4%	6.2%	0.0%
	女性30~39歳	45	53.3%	35.6%	33.3%	33.3%	11.1%	11.1%	0.0%
	女性40~49歳	40	57.5%	55.0%	20.0%	20.0%	12.5%	10.0%	2.5%
	女性50~59歳	22	59.1%	13.6%	13.6%	13.6%	13.6%	13.6%	0.0%
	女性60歳以上	13	53.8%	53.8%	23.1%	23.1%	15.4%	7.7%	0.0%

実際にペットを迎えた方の年齢層では男性で20代~30代、女性は20代が多くを占めており、男女ともに若い年齢層で積極的にペットを迎えた事が窺えます。また、その男女年齢層で迎えたペットは男性では犬を、女性は犬に加えて猫を迎える傾向が高く出ていました。

Q3 今回新たにペットを迎えなかった理由はなんですか。最も当てはまる理由をお選びください。(n=891)



新たにペットを迎えられなかった方の主な理由は、「現在の生活環境」「経済的な理由」が大半を占めております。また、動物愛護の観点からか、「ペットを迎えるのであれば、譲渡会で」という方もおり、コロナの影響により譲渡会の開催自体が中止となり、それにより迎えられなかった、と答えられた方も一定数いらっしゃいました。

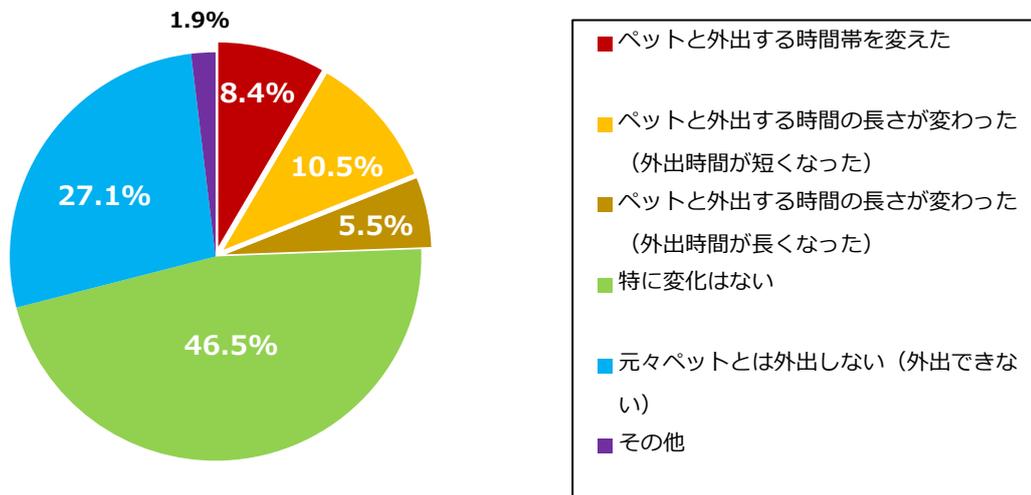
## 2.コロナ禍におけるペット、飼い主のライフスタイルの変化について

多くの方がコロナ禍においてもペットとの外出時間について大きな変化はありませんでした。しかし、ペットとの外出行動については、他のペットがいない時間を選ぶ、人や動物が多い場所へは行かなくなるなど、新型コロナウイルス感染症の予防に努めた行動をするようになった方が多くいらっしゃいました。

Q4 コロナ禍での外出制限によりペットとのお出掛けに変化はありましたか。

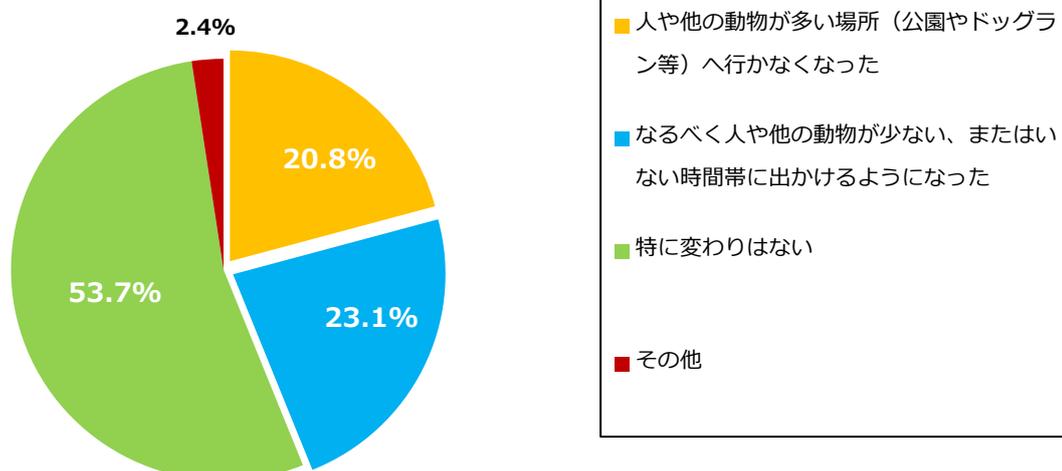
※複数ペットがいる場合は、最も飼っている年数が長いペットについてお答えください。

(n=1100)

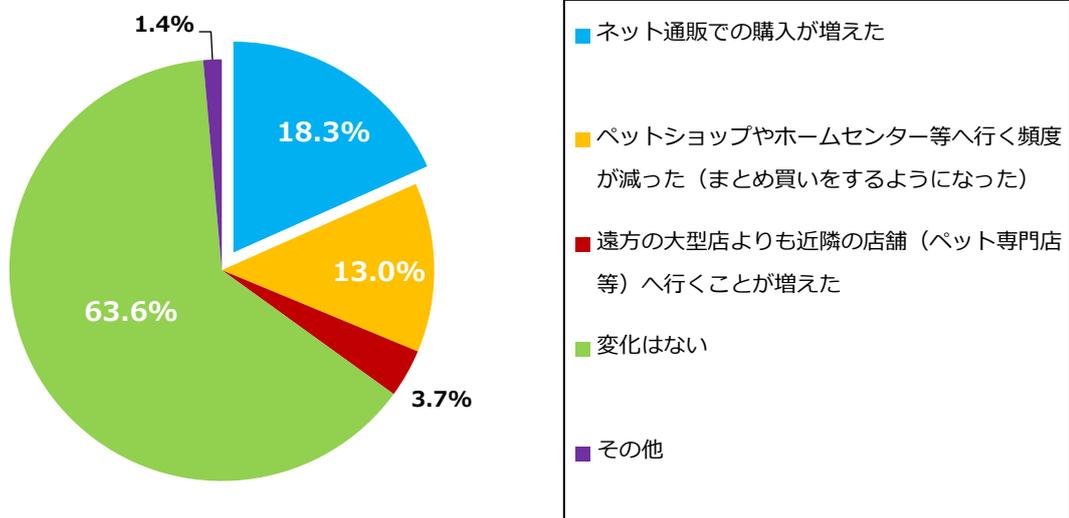


Q5 コロナ禍によってペットとのお出掛け時に気を付けていることはありますか。

最も気を付けていることをお選びください。(n=802)



Q6 コロナ禍での外出制限によりペット用品（フードやおやつ、ペットシート、ペット用おもちゃ等）の購入に変化はありましたか。（n=1100）



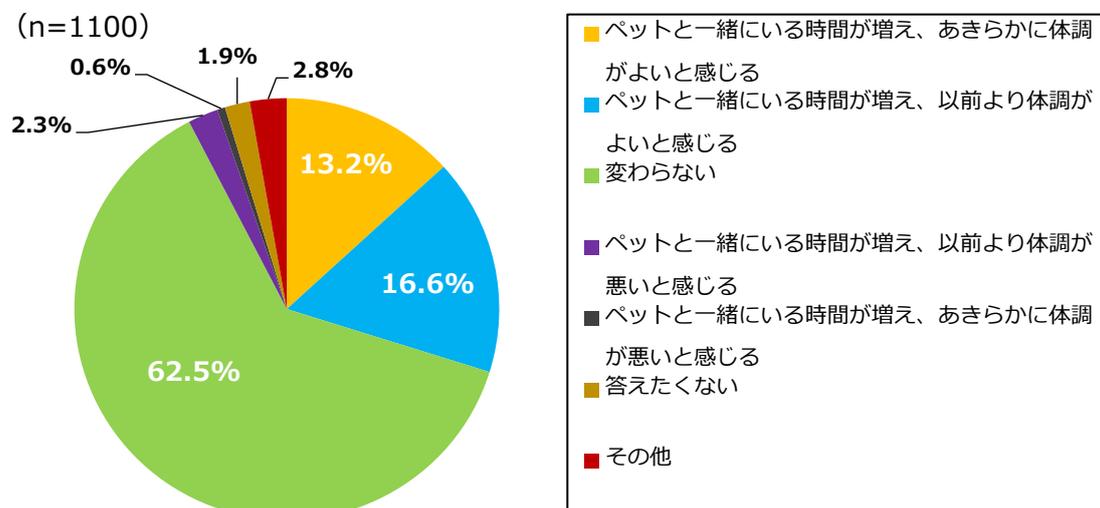
飼い主の行動としてペット用品の購入についても、変化はないと回答された方が多くを占めました。今まで用品を購入していたペットショップやホームセンターへ行く頻度が減り、ネット通販での購入へ切り替えている方もいます。

### 3.コロナ禍におけるペットの体調変化等について

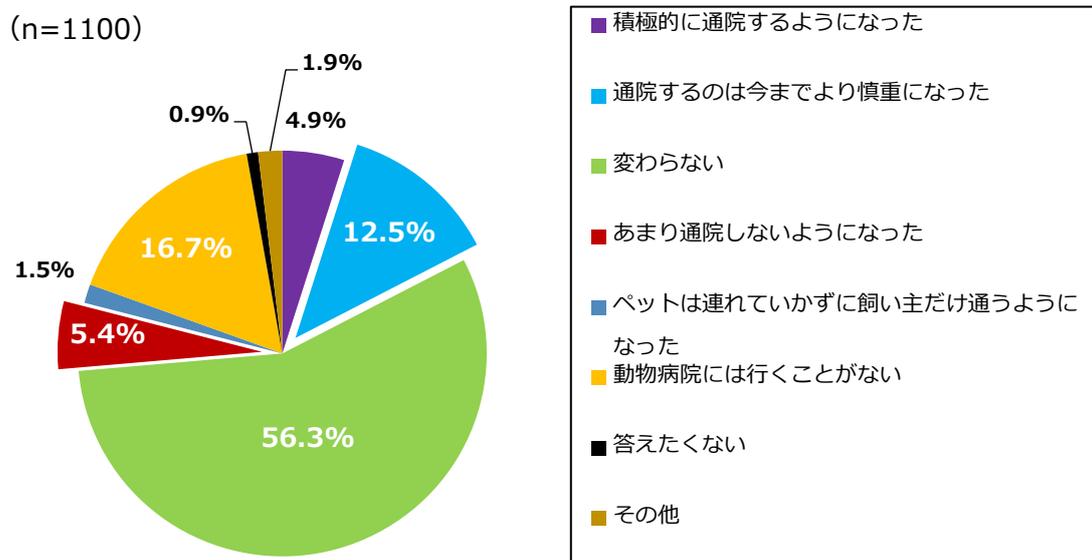
ペットの体調変化や動物病院への通院方法について、多くの方が変化はないと答えました。自宅で過ごす時間が増え、ペットと過ごす時間も増加したことで、コロナ禍以前よりもペットの体調がよと感じる飼い主も一定数います。また、動物病院への通院もペットの具合が悪くなった際に行くことが多いため、通院するのに慎重になる、またはなるべく通院しないようになった方が一定数おり、積極的に通院するようになった方よりも多い結果となりました。

Q7 コロナ禍での生活様式の変化によりペットの体調に変化はありましたか。

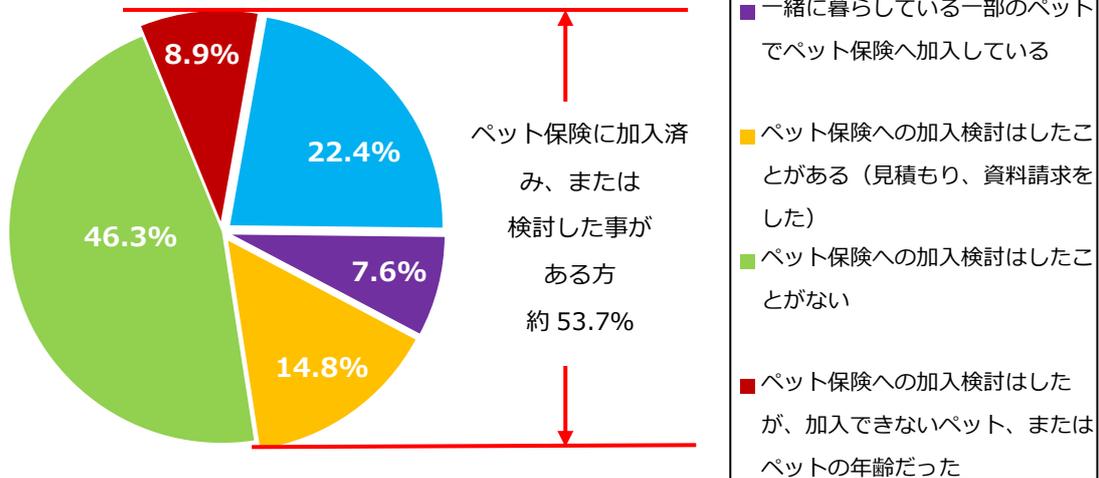
※複数ペットがいる場合は、最も飼っている年数が長いペットについてお答えください。



Q8 コロナ禍での外出制限によりペットを動物病院に連れていく頻度に変化はありましたか。 ※複数ペットがいる場合は、最も飼っている年数が長いペットについてお答えください。



Q9 ペット保険へは加入していますか。(n=1100)

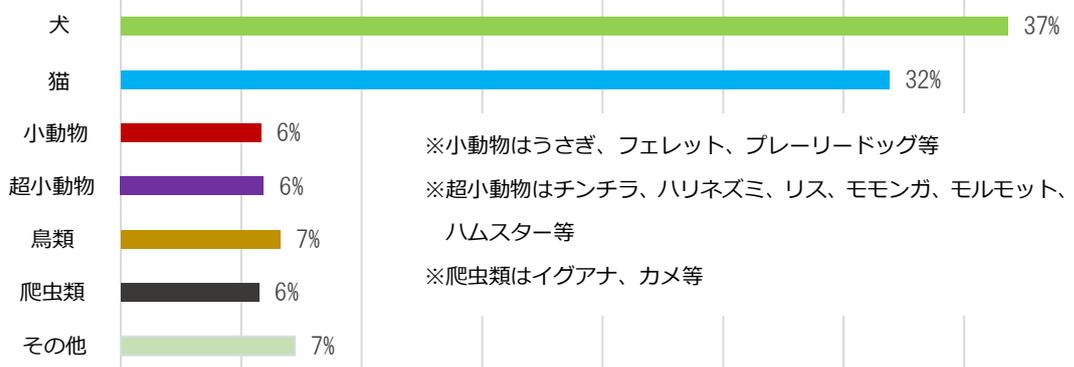


ペット保険については、加入している、または検討したことがある方が半数以上となり、国内のペット保険市場が拡大していることが推察されます。

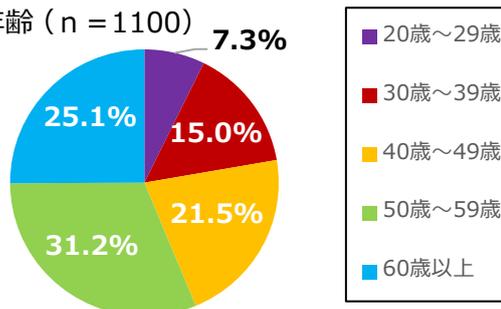
### ■ アンケート回答者属性

※本調査結果の百分率表示は小数点第2位で四捨五入を行っているため、合計が100%にならない場合があります。  
また、複数選択可の設問で得られた回答は、選択肢の合計が100%を超える場合があります。

一緒に暮らしているペット (n=1100)



年齢 (n = 1100)



性別 (n=1100)

